

令和 2 年度

附属図書館活動報告書

東京大学附属図書館

## 目次

1. 令和2年度の特記事項 .....	1
1.1 新図書館計画の完了 .....	1
1.2 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策への対応 .....	1
1.3 学習・閲覧環境の充実とサービス改善の取り組み .....	3
1.4 外部評価の実施 .....	4
2. 研究成果の発信、資料の電子化.....	5
2.1 東京大学学術機関リポジトリ（UTokyo Repository） .....	5
2.2 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業.....	5
2.3 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」による資料電子化作業（総合図書館・駒場図書館） .....	5
3. 利用者サービス、ガイダンス、広報 .....	7
3.1 障害のある利用者（本学構成員）への資料電子化サービス.....	7
3.2 総合的教育改革への対応（駒場図書館） .....	7
3.3 図書館ガイダンス、講習会等 .....	7
3.4 各館の広報 .....	8
3.5 キャンパス一般公開 .....	9
3.6 展示及びイベント企画.....	10
4. 資料の収集 .....	14
4.1 学習用図書 of 整備 .....	14
4.2 全学資料購入集中処理システムの着実な運用 .....	14
4.3 全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備 .....	14
4.4 大型コレクション .....	14
5. 資料の管理 .....	16

5.1	目録データの遡及入力事業	16
5.2	自動書庫	16
5.3	図書資産の実査	16
5.4	アジア研究図書館開館準備作業	17
6.	業務管理	18
6.1	職員研修	18
6.2	学生協働	18
6.3	社会連携・地域貢献	19
6.4	教員著作物可視化事業との連携	20
6.5	学内他部署との連携	20
6.6	規則改正	21
7.	附属図書館会議	22
8.	全図書館・室統計	23
8.1	職員数、蔵書数、利用件数	23
8.2	経年変化	24
9.	付録	26
9.1	新図書館計画の10年（オープンエリア展示パネル再録）	26
9.2	新型コロナウイルス感染症対策記録	38

# 1. 令和2年度の特記事項

## 1.1 新図書館計画の完了

総合図書館本館東側を対象とする耐震改修工事IV期は令和2年1月に着工し、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大による緊急事態宣言下の休工を経て、8月に完了し引渡しが行われた。改修工事のため外部で保管していた図書と製本雑誌の自動書庫への搬入は今年度も引き続き実施した（詳細は「5.2 自動書庫(1)自動書庫への資料入庫（総合図書館）」を参照）。

10月1日（木）、総合図書館内4階開架フロアにアジア研究図書館が開館した。開館に向けては、アジア研究図書館運営委員会において、資料収集や利用規則、広報（ニューズレターの発行など）について検討が行われた。平成30年度調査に基づく各部局図書館・室からの図書移管については、新型コロナウイルス感染症感染拡大による入構制限により、作業の遅延が発生したが、開館時には独自分類の下に日本語・欧米諸言語のみならずアジア地域の様々な言語で書かれた資料18,000冊を4階開架フロアに配架することができた。

総合図書館のグランドオープンとアジア研究図書館の開館を記念する式典は、11月26日（木）、五神総長、藤井理事・副学長の臨席のもと、最小限の人数で開催した。式典と見学会の記録動画はYouTubeで公開した。

新図書館計画の完了により、東京大学基金「新図書館計画「アカデミック・コモンズ」」も9月末をもって終了し、3月末に寄付者へ報告書を送付した。後継の「東京大学附属図書館支援プロジェクト」が11月に発足した。

## 1.2 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策への対応

令和2年1月頃から国内での流行が始まった、新型コロナウイルス感染症対策として、東京大学では原則として国における対応に準じて対応することが発表された。国の緊急事態宣言発出により東京大学は4月6日（月）から活動制限指針レベル2に移行、翌7日（火）にはレベル3に移行し、図書館も閉館を余儀なくされた。活動制限指針は6月1日（月）にレベル2、同15日（月）にレベル1、7月13日（月）にはレベル0.5まで引き下げられたが、令和3年1月7日（木）に発出された2度目の緊急事態宣言により、同11日（月）から再びレベル1に引き上げられた。3月21日（日）に緊急事態宣言が解除されたことに伴い、同22日（月）からレベル0.5に引き下げられたが、活動制限は継続しており、令和2年度は通常開館が困難な状況が続いた。

附属図書館では、学生ボランティア ACS (Academic Commons Supporter) の募集を中止し、インターンシップの受け入れを取りやめた。各館では次のような対応を取った。

### (1) 総合図書館

総合図書館は令和2年4月7日（火）から閉館し、臨時サービスとして教員を対象に予約制で資料の貸出を行ったが、東京大学の活動制限指針が同日にレベル3に引き上げられたことにより、翌8日（水）から臨時サービスも休止して完全閉館した。

閉館中は、附属図書館 Web サイトで「オンライン学習、在宅研究・勤務で利用できるオンラインサービスのご案内」を公開し、オンライン講義や在宅での学習・研究に役立つ情報を随時追加していった。また、出版社等が特別に提供するオンラインリソース等を導入する手配を積極的に行った。一方で現物資料によるサービス再開の準備も進め、5月18日（月）から郵送による図書館資料の貸出及び複写物提供サービスを、活動制限指針レベル2に引き下げられた6月1日（月）から事前予約による書庫資料の対面貸出サービスを開始した。レベル1に引き下げられた同15日（月）から、在籍者を対象に限定開館（本館のみ平日9:00～17:00開館、閲覧席利用停止、ライブラリープラザ閉室等）を開始し、4月8日（水）以降停止していた貴重図書やマイクロ資料の利用受付、相互利用業務、キャンパス間配送、委託業者による複写受付も再開した。また、郵送による図書返却の受付を開始した。7月13日（月）に活動制限レベルが0.5に引き下げられたため、翌14日（火）から、座席数削減、入館時のマスク着用必須、消毒用アルコール設置といった感染防止対策を取った上で、在籍者を対象に通常開館時と同様のサービスを開始した。健康状態等の理由で大学に来られない利用者のため、郵送による図書館資料の貸出及び複写物提供サービス、郵送による図書返却の受付は継続している。

令和3年1月11日（月）に活動制限指針がレベル1に再度引き上げられたため、同18日（月）から限定開館に移行したが、レベル0.5に引き下げられた3月22日（月）から平日の開館時間を8時30分から9時に繰り下げた上で通常開館時のサービスをほぼ再開し、学外者の利用も予約制により再開した。

## (2) 駒場図書館

駒場図書館では、総合文化研究科・教養学部の活動制限に対応し、開館時間の短縮と臨時閉館を行った。4月からの閉館期間中は、授業利用のための教員専用資料貸出・文献複写サービス、学位論文執筆者を対象とした資料郵送貸出・文献複写郵送サービスを実施、及び電子ブックが利用可能な教科書のリストをウェブサイト上で公開した。6月に来館利用を再開した後は、対面業務用アクリルパーテーションや消毒液を館内各所に設置して感染予防を図るとともに、図書館利用を事前予約制にして同時間帯における利用者数の調整を行った。施設面では、閲覧席およびメディアパーク ECCS 端末用座席の間引き、グループ学習室、飲食コーナー、ウォータークーラーの利用停止、業者による階段手摺およびトイレ周辺の抗菌・抗ウイルス液体塗布等を実施した。

## (3) 柏図書館

柏図書館では、年度当初から夜間土曜開館を取りやめたほか、学外者の入館制限を実施した。さらに、4月7日（火）～6月14日（日）の間、東京大学の活動制限指針レベルが2以上となり臨時休館とした。5月中旬頃、臨時休館が長期に及び学生からも図書館機能の維持に対する要望があったこと等から、5月18日（月）から学生に対する郵送貸出を開始した。柏図書館においては6月15日（月）まで実施し、のべ98件175冊の郵送貸出を行った。また、6月1日（月）から事前予約した資料を事務室で貸し出しするサービスも開始した。こちらは、6月12日（金）まで実施し、21件39冊の貸出を行った。

東京大学の活動制限指針レベルが1に緩和された6月15日（月）からは、学内者のみを対象として短縮開館を再開した。さらにレベル0.5に緩和された後、7月14日（火）から通常どおりの開館時間でサービスを再開したが、学外者についてキャンパス内入構制限が継続してい

たことから柏図書館も入館制限を継続した。なお、学外者の利用については、手指消毒やマスク着用の義務化、入退館時刻の記録を徹底することを条件に、10月19日（月）から再開した。

その後、1月11日（月）に東京大学の活動制限指針レベルが1に引き上げられたため、学外者の入館制限を再度実施したが、入館証や柏図書館友の会会員証をもつ学外者については、利用を継続する措置を取った。

## 1.3 学習・閲覧環境の充実とサービス改善の取り組み

### (1) 総合図書館

利用者の多様なニーズに応える設備の拡充

本館改修工事により、グループ学習室としても利用できるプロジェクトボックス8室、語学やプレゼンテーションの発声練習が可能な防音ブース4室、書庫資料の長期利用や学生の自習利用ができる閲覧個室14室、講習会や授業に利用でき、空室時は閲覧席として利用できるセミナールーム3室が新設された。カウンタータイプの閲覧席の増設、ハイカウンタータイプの閲覧席の新設も行い、利用者が目的に応じて選択できる設備の幅が広がった。また、防音ブースのうち1室は車椅子対応の広さとしたほか、緊急放送に連動してライトが点滅する閲覧席を設ける等、バリアフリー対応設備も拡充した。

カウンターサービスの拡大

令和2年11月から、本館1階及び地下1階カウンターに全学事業予算で雇用した学生スタッフを配置し、自動書庫資料の利用時間の拡大及び本館・別館の一体的運用を開始した。自動書庫資料は従来平日20時まで（8月・3月は17時まで）しか利用できなかったが、総合カウンターに学生スタッフを配置することにより、夜間および土日祝日も含め開館時間中いつでも自動書庫資料を利用できるようになった。また、本館地下1階カウンターにも学生スタッフを配置して開館時間中いつでも本館・別館を結ぶ地下通路を通行可能としたことにより、利用者の利便性が向上した。

東京大学の知的資産を可視化する象徴的空間の整備

耐震改修工事により新設された3階ホール壁面の書架を活用し、東京大学の知的資産を可視化する象徴的空間として整備した。UTokyo BiblioPlaza 掲載図書を中心に東京大学の教員著作を展示する「UTokyo Faculty Works」コーナー（「6.4 教員著作物可視化事業との連携」を参照）のほか、東京大学出版会とのコラボ展示を行う「Shelf of UTokyo Press」コーナー、東京大学生協同組合とのコラボ展示を行う「Shelf of UTokyo COOP」コーナーを常設し、新着図書コーナーもホール内に移設した。展示図書は定期的に更新し、利用者が多様な著作に触れる機会の向上を図っている。

図書配送サービスの拡大

学内他図書館・室との図書配送について、キャンパス間のみでなく同一キャンパス内でも可能とすることが将来的な課題として認識されていたが、コロナ禍による利用制限のため学内図書館・室に利用者がアクセスしにくくなった状況も踏まえて検討・実施を前倒した。学内図書館・室全体の合意を得られたことから、令和3年1月18日（月）から本郷キャンパス内図書

館・室間の図書配送を開始し、本郷キャンパス部局所属者が、本郷キャンパス内図書館・室の図書を所属部局の図書館・室（ホームライブラリ）で受取・返却できるようにした。

また、必要な図書館システム改修が整ったことから、2月15日（月）からホームライブラリに加えて拠点図書館（駒場図書館は令和3年8月以降を予定）でも、学内他図書館・室から取り寄せた図書を受け取ることを恒常的に可能とした。

これらのサービス拡大により、入館可能者や開館時間が限られている本郷キャンパス内図書館・室の図書をホームライブラリや拠点図書館に取り寄せて受け取ることができるようになり、利用者の利便性が大きく向上した。なお、本郷キャンパス内の図書配送については、当初はコロナ禍対応として3月31日（水）までの予定であったが、利用者・業務者ともに好評であったことから、学内合意を得て令和3年8月31日（火）まで延長し、併せて恒常サービス化の検討も行うこととなった。

## (2) 駒場図書館

学習・閲覧環境の充実に向けた取り組み

新着図書コーナーの展示方法について、より利用者の興味をひき、手にとりやすくするため、ブックスタンドを用いて表紙が見える陳列の割合を増やした。ブックスタンドの資料が借りられたときは常に補充し、魅力ある本棚の維持に努めた。

教員・学生に対するサービス改善

指導教員の押印を必要とする申請書について、学生が教員と直接会うことが困難な状況を鑑み、学生と教員とのやり取りがメールのみで完結するよう、教員のメールアドレスが東京大学ドメインであることがわかる送信記録をもって押印の代替とする方法を整えた。また、カウンターで受付していた申請類のうち、メール申請で対応可能なものは来館不要に変更して対応した。

## 1.4 外部評価の実施

平成25～30年度を対象とした令和元年度の自己点検評価を受けて、平成26年度以来5年ぶりの外部評価を実施した。

外部評価委員を学外の有識者4名に委嘱して、新型コロナウイルス感染症感染拡大の折から、令和2年10月29日（木）にオンライン形式で外部評価委員会を開催した。外部評価委員会で行われた3つのプレゼンテーション「附属図書館の現状と課題」「学術情報基盤の整備」「総合図書館の視察に替えて」などに対して委員の方々から評価・提言をいただき、令和3年1月に「令和2年度東京大学附属図書館外部評価報告書」としてとりまとめた。

## 2. 研究成果の発信、資料の電子化

### 2.1 東京大学学術機関リポジトリ (UTokyo Repository)

令和 2 年度は全体で 1,088 件のコンテンツ追加登録を行い、これにより総コンテンツ数が 44,550 件になった。登録コンテンツの内訳は、紀要・博士論文が中心である。紀要は、89 誌からなる 28,219 件の論文を公開しており、本学の研究成果の発信に貢献している。主として機関リポジトリを公開プラットフォームとして利用している紀要の掲載論文及び、本文または要約を公開している博士論文に対し DOI 付与を行っている。JAIRO Cloud のシステムリプレイスに対応し、令和 3 年 3 月に新システムに移行、リニューアル公開した。

### 2.2 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業

平成 29 年度からスタートした東京大学デジタルアーカイブズ構築事業は、令和 2 年度も附属図書館、文書館、総合研究博物館、情報基盤センターの各長などからなる「東京大学学術資産等アーカイブズ委員会」を中心に事業を進め、公募により選定された 16 事業の取り組みを着実に進めた。

令和元年 6 月に公開した、学内の様々な部局がデジタル化し公開しているコレクションを横断的に検索できる「東京大学学術資産等アーカイブズポータル」では、令和 2 年度には新たに 14 のコレクションを追加し、検索可能件数は合計 172,898 件となった。

令和 3 年 2 月には、総合図書館が公開するデジタルアーカイブ資料について、世界的なデジタルアーカイブである Internet Archive との連携を開始した。このことにより、事前申請不要で自由に利用できる 25 コレクション 4,180 点が Internet Archive でも検索・閲覧可能になった。

また、デジタルアーカイブズ構築事業によるデジタル化資料の活用に注目した、学術資産アーカイブ化推進室主催のオンラインセミナー「使われるデジタルアーカイブになるために」を 2 月 16 日 (火) に開催し、学内外から 220 名を超える参加者があった。

3 月には、これまでの活動が評価され、学術資産アーカイブ化推進室及び室員の中村覚・史料編纂所助教に対して、デジタルアーカイブ学会第 3 回学会賞実践賞の受賞が決定した。

### 2.3 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」による資料電子化作業 (総合図書館・駒場図書館)

本学では、国文学研究資料館が実施する標記事業の拠点大学として、継続的に古典籍の電子化を行っている。令和 2 年度は、総合図書館が所蔵する「田中芳男文庫」「鷗外文庫」「鶚軒文庫」から合計 620 点、駒場図書館が所蔵する古典籍 15 点の電子化を実施した。そのほか、理学図書館所蔵の 27 点、農学生命科学図書館所蔵の 69 点の電子化も実施した。また平成 30 年度に電子化を行った古典籍 (総合図書館 87 点/駒場図書館 218 点/明治新聞雑誌文庫 137 点/工学・情報理工学図書館 9 点/東洋文化研究所 139 点/数理科学研究科図書室 1 点) について、7 月に新日本古典籍総合データベースから公開された。



さらに、総合図書館が所蔵する連歌俳諧書集成（洒竹文庫・竹冷文庫・知十文庫）について、マイクロフィッシュからの電子化も実施した。これにより洒竹文庫等の画像を令和 3 年度に公開できる見込みとなった。

## 3. 利用者サービス、ガイダンス、広報

### 3.1 障害のある利用者（本学構成員）への資料電子化サービス

総合図書館、駒場図書館、柏図書館において、バリアフリー支援室の協力の下、視覚障害等により紙資料の閲読が困難な利用者を対象とした資料電子化サービスを実施している。令和 2 年度の電子化実施件数は、総合図書館 21 件（うち PDF19 件、テキストデータ 2 件）、駒場図書館 5 件（全てテキストデータ形式）であった（柏図書館は実績なし）。

また、大学院生の高い専門性を学内業務に活かして対価を支払うオンキャンパスジョブを活用した修学支援事業に「障害のある学生への就学支援業務及び障害のある教職員への就業支援業務」として応募し採択を受けた。当事業は駒場図書館を主担当として、利用者から要望のあった書籍 2 点のテキストデータ作成を行った（「6.2 学生協働(3)オンキャンパスジョブ」を参照）。

さらに「障害のある利用者への資料電子化サービス実施要項」について、バリアフリー支援室との調整の下、対象者の拡大及びサービス実施体制の強化（部局図書館・室との連携強化）を明記するかたちの改訂を行った。

### 3.2 総合的教育改革への対応（駒場図書館）

#### (1) 初年次ゼミナールでの授業支援

令和 2 年度に開講された学部新入生必修授業の「初年次ゼミナール文科総合コース」及び「初年次ゼミナール理科」において、前年度に引き続き支援を行った。駒場図書館情報サービス担当と情報システム部情報基盤課学術情報チーム学術情報リテラシー担当（以下、「学術情報リテラシー担当」）が連携して「文献検索ワークショップ」のオンデマンド動画及びテキスト教材を制作し提供した。また、従来初年次教育部門との連携により館内で実施していた「図書館セミナー」については、同内容を動画にして提供することで代替できたが、学生スタッフが館内を案内する「図書館ツアー」や、学生自身がマップを見ながら館内を巡る「セルフツアー」は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う臨時閉館により中止となった。

#### (2) 全学自由研究ゼミナール「図書館の学び・活用・提案」との連携

平成 29 年度から開講の全学自由研究ゼミナール「図書館の学び・活用・提案」（通称：こまとちゃんゼミナール）の一環として、駒場図書館バックヤード見学、発表会の聴講・講評、駒場図書館展示コーナーを活用しての授業成果発表を継続して実施し、教育学習資源としての図書館の有効活用促進に寄与する成果を得てきた。令和 2 年度はオンライン授業となったため館内展示等による成果発表は見送られたが、学生からの質問に回答する形でバックヤードを紹介したり、成果発表としてのビブリオバトルを聴講・講評したりといった面で支援した。

### 3.3 図書館ガイダンス、講習会等

#### (1) 総合図書館

例年学術情報リテラシー担当と協同で実施していたオリエンテーション（図書館ツアーと資料検索ガイダンス）は新型コロナウイルス感染症の影響により中止し、セルフツアーを開催した。

期間	内容	参加者数
令和2年 7月14日(火)～9月7日(月)	「総合図書館 セルフツアー」 (日本語・英語)	70名
令和2年 10月5日(月)～11月12日(木)	「総合図書館 セルフツアー」 (日本語・英語)	150名

## (2) 駒場図書館

学内授業オンライン化の情勢を汲み、動画公開プラットフォームとして公式 YouTube チャンネル「こまとちゃんねる」を令和2年8月末に開設した。初期コンテンツとして、「駒場図書館バーチャルツアー」英語版を公開し、9月の留学生ガイダンスへ提供した。追って12月に同日語版を制作し公開した。なお、例年実施されていた初年次ゼミナール文科総合コース オプションの図書館ツアー、留学生向け図書館ツアー及び対面実施のデータベース講習会等は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

期間	内容	参加者数
春季	初年次ゼミナール文科総合コース 文献検索ワークショップ(動画提供)	1,348名
春季	初年次ゼミナール文科総合コース オプション図書館セミナー(動画提供)	—
春季	授業支援 計3回(動画提供1回、Zoom2回)	6名
秋季	留学生向け図書館ツアー・ガイダンス(バーチャルツアー動画提供)	—

## (3) 柏図書館

例年4月～7月、9月～11月に開催している新入生および留学生ガイダンスは、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止し、資料配付のみを行った。また、データベース講習会についても中止し、代替措置として学術情報リテラシー担当が Zoom で開催したオンラインセミナーを、柏キャンパス内に広報した。このほか、春季・秋季の2回開催している柏図書館セルフツアーは、秋季のみ開催した。

期間	内容	参加者数
秋季	柏図書館セルフツアー	1名

## 3.4 各館の広報

平成31年3月13日(水)に開設した総合図書館 Twitter アカウントから、令和2年度は400回以上のツイートを行った。特に令和2年4月～5月の間は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う入構制限・オンライン授業への対応として、平日の毎日、附属図書館ウェブサイトの「オン

ライン学習、在宅研究・勤務で利用できるオンラインサービスのご案内」ページを紹介するツイートをを行い、図書館閉館中も利用できるサービスの周知に努めた。

総合図書館ウェブサイトでは、大学の入構制限に伴うサービス変更の案内ページや、郵送貸出ページの作成・運用を行った。一方、アジア研究図書館の開館に向け、ウェブサイト構築の支援や総合図書館ウェブサイトとの連携を行った。

また、昨年度作成した総合図書館リーフレット「探究は、終わらない」を、総合図書館改修工事完了にあわせて改訂した。改訂後のリーフレットは学生向けオリエンテーション等での配付を想定して各部局に送付し、改修工事完了後の新たな設備・サービスの広報に活用した。

柏図書館では、メールニュースの「柏図書館からのお知らせ」を、毎月和・英の両方12回発行したほか、臨時便を7回発行し、柏キャンパス内の教職員・学生向けに利用案内やイベントのお知らせを行った。

### 3.5 キャンパス一般公開

令和2年度も、本郷キャンパスで「高校生のためのオープンキャンパス」、卒業生を対象にした「ホームカミングデイ」、柏キャンパスで「柏キャンパス一般公開」が開催された。いずれも新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン形式での実施となった。

#### (1) 総合図書館

オープンキャンパスは、第1弾（同時参加型）が令和2年9月21日（月）～22日（火）、第2弾（オンデマンド型）が令和3年1月6日（水）～19日（火）にオンライン形式で開催された。総合図書館は第2弾に参加し、展示・イベントワーキンググループで総合図書館の紹介スライドショー『ようこそ総合図書館へ』を作成し、東大TVを介して公開した。

ホームカミングデイもオンライン形式での実施となり、令和2年10月17日（土）～25日（日）の間、動画が公開されることとなり、展示・イベントワーキンググループで総合図書館の紹介スライドショー『総合図書館バーチャルツアー』を作成し公開した。

#### (2) 柏図書館

柏キャンパス一般公開は、10月23日（金）～24日（土）の2日間で開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大に配慮し、10月17日（土）～31日（土）にオンラインで開催された。柏図書館が実施したイベントは以下のとおり。

期間	内容
令和2年 10月17日（土） ～31日（土） 柏図書館テーマ 「先人の知恵を辿る う」	中学生、学会をつくるー「博物之友」初公開ー 柏図書館に所蔵されている「博物之友」のオンライン公開（既存の東京大学附属図書館コレクションへのリンク） 柏図書館バーチャルツアー 柏図書館正面から入館し、図書館内部をフロアごとに写真で見学後、自 動書庫内部を動画で見学できるバーチャルツアーを作成

## 3.6 展示及びイベント企画

### (1) 総合図書館

#### 展示

令和 2 年度のイベントは中止もしくは縮小を余儀なくされたが、総合図書館グランドオープン記念として、展示スペース及び新設されたオープンエリアにおいて展示を行った。合わせて非来館型展示の試みとして、「総合図書館バーチャルミュージアム」を Web 上で公開している。なお、東京大学の活動制限指針レベルの引き上げに伴い、令和 3 年 1 月 18 日（月）から 3 月 21 日（日）まで展示スペース及びオープンエリアは閉室とした。

期間	場所	内容
令和 2 年 11 月 27 日（金） ～開催中	展示スペース	総合図書館の 130 年を振り返る 1 ～創立から震災復興まで
令和 2 年 11 月 27 日（金） ～開催中	オープンエリア	新図書館計画の 10 年（※）

※「9.1 新図書館計画の 10 年」に展示パネルを掲載。



総合図書館正面（作成：東大レゴ部）

講演会・セミナー等

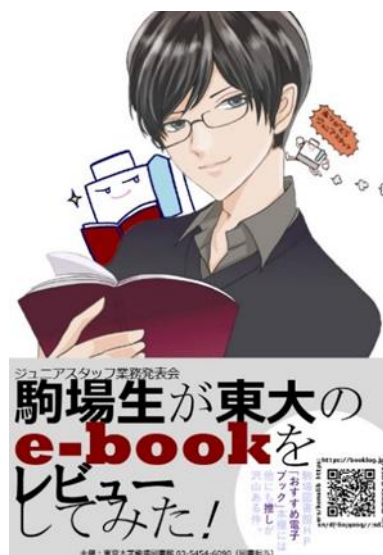
新型コロナウイルス感染症感染防止のため、講演会・イベントの多くは中止またはオンライン開催となった。

期間	内容	参加者数
令和2年 8月1日(土)	アジア研究図書館、ヒューマニティーズセンター、東アジア藝文書院主催・附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門協力 シンポジウム「アジアにおける西洋社会思想の受容と変容」 (オンライン開催)	104名
8月8日(土)	アジア研究図書館、附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門主催 シンポジウム「漢籍デジタル化公開と中国古典小説研究の展開」(オンライン開催)	113名
10月29日(木)	大学総合教育研究センター、附属図書館主催 第15回ミニレクチャプログラム(オンライン開催)	67名
12月1日(火)	アジア研究図書館、附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門主催 協働型アジア研究オンラインセミナー「IIIFに準拠した画像公開の方法とTEIとの連携」(オンライン開催)	112名
令和3年 2月16日(火)	第4回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー 「使われるデジタルアーカイブになるために」(オンライン開催)	227名
3月15日(月)	アジア研究図書館、附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門主催 東京大学アジア研究図書館開館記念シンポジウム「サブジェクト・ライブラリアンの将来像-日本の大学図書館への導入拡大に向けて-」(オンライン開催)	379名
3月23日(火)	大学総合教育研究センター、附属図書館主催 第16回ミニレクチャプログラム(オンライン開催)	39名

## (2) 駒場図書館

展示

期間	内容
令和2年12月15日(火) ～令和3年3月	展示「駒場生が東大のe-bookをレビューしてみた!～e-bookレビュー展示～」(駒場図書館1階)




## (3) 柏図書館


展示

期間	内容
令和2年 3月～	第17回企画展示「中学生、学会をつくる」
4月～10月	第18回企画展示「図面と資料から見る東京大学キャンパスの系譜」
11月～3月	第19回企画展示「宇宙線研究所の今昔」

**図面と資料から見る  
東京大学キャンパスの系譜**

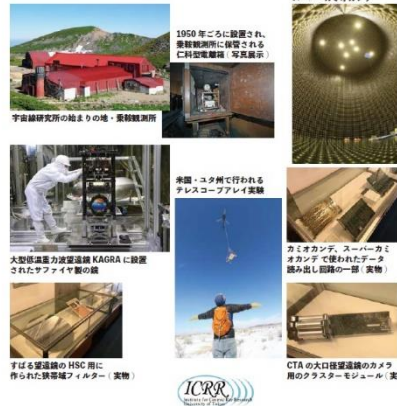
場所：東京大学柏図書館  
期間：2020年4月6日～10月31日  
企画：東京大学文書館




 東京大学文書館  
The University of Tokyo Library

**宇宙線研究所の今昔**  
宇宙線研究所の歴史を写真と装置で振り返る

場所 東京大学柏キャンパス柏図書館  
期間 2020年11月5日～2021年3月31日  
企画 東京大学宇宙線研究所



 ICRR  
Institute for Cosmic Ray Research

イベント等

期間	内容
令和2年 11月9日（月）	第24回サイエンスカフェ「柏から生まれた『健康長寿』の秘訣とは？」 田中 友規（高齢社会総合研究機構 特任研究員）

6月26日（金）に予定していた第23回サイエンスカフェ（ゲスト 物性研究所 小林洋平教授）および1月15日（金）に予定していた第23回わくわくミニコンサート（主催：東京大学柏図書館友の会）は、キャンパス内入構制限等のため中止した。


**東京大学**  
The University of Tokyo

**Kashiwa Library events 2020**  
東京大学柏図書館イベントシリーズ2020

---

**第24回 柏図書館サイエンスカフェ**  
Kashiwa Library Science Café #24

**柏から生まれた「健康長寿」の秘訣とは？**



**ゲスト 田中 友規 先生**  
東京大学高齢社会総合研究機構 特任研究員

**カフェホスト 大島 義人 教授**  
東京大学柏図書館長  
新領域創成科学研究科

【田中友規先生のご紹介】

博士（医学）、修士（健康マネジメント学）。老年学・老年医学、健康マネジメント学が専門。東京大学大学院医学系研究科修了後、同学高齢社会総合研究機構の特任研究員として健康増進・フレイル予防に向けた住民主体・機会介入プログラムの持続可能な地域実践モデル構築について研究。柏市をはじめとする全道規模の自治体と共同して、フレイル兆候のある高齢者の多面的な機能維持・向上への有効性を検討する。

- ▶ 会場での参加のほか、Zoomによるライブ配信でもご参加いただけます。また、後日動画の配信を予定しています。
- ▶ 会場での参加は、今後の感染状況により中止する場合があります。
- ▶ 会場での参加、Zoomによるライブ配信いずれもお申し込みが必要です。
- ▶ お申し込み方法などは、ホームページをご覧ください。

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/kashiwa/event/20201021>

**11/9（月） 16:00～17:30**  
※ 受付開始 15:45

会 場：柏図書館1階コミュニティサロン  
会場定員：10名(事前のお申し込みが必要です)

**参加  
無料**

主催：東京大学柏図書館      お問い合わせ  
後援：東京大学柏図書館友の会      Tel: 04-7136-4224    E-mail: kashiwa@lib.u-tokyo.ac.jp  
HP: <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/kashiwa>



## 4. 資料の収集

### 4.1 学習用図書整備

平成 20 年度から恒常的に措置されている学習基盤経費により、今年度は総合・駒場・柏図書館で合計 9,304 冊（総図：4,418 冊、駒場：3,444 冊、柏：1,442 冊）の学習用図書を購入した。図書の選定に際しては、教員からの推薦、図書館職員による選定のほか、学生自身の観点を生かすため、ジュニア・スタッフによる選書を実施している。また、留学生向けの資料購入も別途行っており、総合図書館では 55 冊、柏図書館では和書を中心に 59 冊の図書を購入した。このほか、駒場図書館では平成 22 年度から継続して東大駒場友の会から学生向けの図書の寄贈を受けており、今年度は 240 冊が寄贈された。

また、シラバス掲載タイトルの購入など、和書電子書籍の整備を積極的に推し進め、4,685 タイトルが利用可能となっている。

### 4.2 全学資料購入集中処理システムの着実な運用

経費節減と事務の効率化を図ることを目的として、図書資料を全学的に共同購入するシステムを平成 16 年度から運用している。第 1 ステージ（図書館・室を通して購入する図書資料）と第 2 ステージ（教員等が各部局の会計担当を通して直接購入する消耗品扱いの図書資料）をあわせた令和 2 年度の取扱総額は約 2 億 4,400 万円であり、書店への支払いの集中化・一元化により約 1,137 万円の図書購入費を節約することができた。

### 4.3 全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備

平成 18 年度に学内施策として合意された「全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備」の制度は、第 3 期（平成 28～令和 2 年度）の最終年を迎えた。

この制度に基づき、令和 2 年度は国内雑誌・外国雑誌（冊子）2,830 タイトル、電子ジャーナル 10,348 タイトル、データベース 66 点を契約し、学習・教育研究活動に必要な学術情報を安定的に供給した。これらの契約にかかる事務処理は総合図書館が一括して執り行い、学内の契約・支払い業務の効率化も同時に図っている。

また、第 4 期（令和 3～7 年度）に向けて、令和 2 年度に図書行政商議会で合意された資料選定方針にもとづき、整備対象資料の次年度契約準備を進めるとともに、令和元年度に役員会で認められた必要経費の枠組みに則り、全学事業として令和 3 年度予算の要求を行い、予算委員会の承認を得た。

### 4.4 大型コレクション

全学共通経費の大型コレクションの収集対象として、以下の資料を選定した。

- (1) Early European Books, Collection 6（初期欧州書籍集成データベースコレクション 6）
- (2) The Making of Modern Law

- ・ Primary Sources, 1620-1926 (MOML4)
- ・ Primary Sources II, 1763-1970 (MOML5)
- (3) オンライン版全国商工会議所関係資料 第Ⅲ期
- (4) Nineteenth Century Collection Online (NCCO) -Photography : The World Through the Lens (19世紀史料コレクションデータベースーレンズを通して見る世界)

## 5. 資料の管理

### 5.1 目録データの遡及入力事業

附属図書館では、オンライン蔵書検索システム（OPAC）が導入される以前の紙の目録カードで整理されていた全学の図書について、遡及的に目録データを入力することによって、オンラインで検索できるようにする事業を10年計画で進めている。

平成27年度から開始した第3期全学遡及入力計画では、令和元年度までの前半5年間は、国文学研究資料館が中心となって実施する「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に伴う「新日本古典籍総合データベース」の構築や東京大学新図書館計画を踏まえて総合図書館所蔵資料を優先して行った。今年度は、令和元年度に行った第3期全学遡及入力計画の後半5年間への参加希望調査に基づき、法学、工学、理学、農学、駒場図書館、数理科学、東文研所蔵の和古書・漢籍・和書・洋書等の入力を実施した。合計で当初30,900冊の目録作成を目標とし、約31,500冊（うち総合図書館は約10,500冊）のデータ入力を達成した。

### 5.2 自動書庫

#### (1) 自動書庫への資料入庫（総合図書館）

新型コロナウイルス感染症対策の影響で、資料を保管している国立女性教育会館からの搬出作業が遅れたが、令和3年1月上旬に入庫作業を開始し、旧書庫保存の参考図書・国際資料等、約6万冊の入庫が3月下旬にほぼ完了した。これにより、初期入庫作業は完了し、耐震改修工事着工前に利用に供していた資料のほとんどが閲覧可能となった。

#### (2) 自動書庫への雑誌移管（柏図書館）

令和2年度は総合図書館、駒場図書館、医学、工・情報理工（5専攻）、理学、農学、医科研の11図書館・室から、自然科学系学術雑誌のバックナンバー4,647冊を移管し自動書庫に収納した。現在、自動書庫には約40万冊が収納されており、PDF閲覧サービスを通じて全学の利用に供されている。

### 5.3 図書資産の実査

#### (1) 総合図書館

総合図書館の図書資産実査は、10年で全資料を一巡する計画で順次実施している。令和2年度は第2期計画の6年目にあたり、保存書庫内に配架されている洋図書（分類A-D）及び未延文庫54,430冊と、令和元年度実査時未確認資料64冊を実査の対象とした。その結果、54,430冊のうち不明資料は20冊であった。また、令和元年度の不明資料64冊については43冊の所在を確認できたものの、残る21冊については依然不明であったため、令和3年度に再調査を行うこととした。

#### (2) 駒場図書館

令和2年度は、保存庫資料計20,236冊と不明資料120冊を対象として実施した。その結果、計168冊が不明であったため、令和3年度に再調査を行うこととした。

また、以前より不明であった資料 56 冊について現物調査を行った結果、52 冊は依然として不明であったため、調査不十分の 22 冊および消耗品の 5 冊を除き 25 冊を亡失資料として除籍手続きを行った。

### (3) 柏図書館

令和 2 年度は、分類記号の 3 類および 6 類から 8 類の開架図書 15,800 冊を対象に、11 月から 12 月にかけて実査を実施した。その結果、全ての資料を確認できた。また、令和元年度の不明資料 2 冊について併せて再調査を実施した結果、2 冊とも依然として不明であったため除籍手続きを行った。

## 5.4 アジア研究図書館開館準備作業

平成 30 年度に行ったアジア研究図書館新設に伴う図書移管に係る調査の結果を基に 4 階開架フロアに配架することが適切と判断した資料を、令和元年度から総合図書館に搬入し作業を進めた。これにより、アジア研究図書館は、購入や寄贈による 12,700 冊を含め、18,000 冊の蔵書を有する図書館として、令和 2 年 10 月 1 日（木）に開館した。

その後の移管作業により、3 月末までに、開架図書は 31,000 冊を配架したが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で作業が遅れが生じたため、人文社会系研究科の移管対象資料のうち、5,000 冊の整理作業及び 9,500 冊の搬入、移管処理、整理作業を令和 3 年度に繰り越すことになった。

## 6. 業務管理

### 6.1 職員研修

附属図書館研修プロジェクトでは、年度内の早い時期に新任職員研修の実施を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症感染拡大の状況に鑑み、すべての集合型研修の実施を見送った。国立大学図書館協会、JPCOAR 等の研修や会議、イベントに参加することでオンライン研修の知見を得ることができたことから、来年度に向けてオンライン形式を中心に職員のニーズに合った目的別研修を実施することを検討した。

### 6.2 学生協働

#### (1) 附属図書館 Academic Commons Supporter (ACS)

Academic Commons Supporter (以下、ACS) は、平成 25 年度に発足した、附属図書館で活動する学生ボランティア団体である。総合図書館をはじめとした各図書館・室を通じて、東京大学の学生の分野を超えた知の交流を生み出すため、イベント等を学生の発案により企画・実施してきた。令和 2 年度はコロナ禍による活動制限のため、イベント活動が見込めないことから募集を中止し、活動を休止した。この間、学生協働を担当する職員は「第 10 回大学図書館学生協働交流オンラインシンポジウム (梅光学院大学)」に参加するなど検討を重ね、新図書館計画の完了に合わせて ACS の活動を終了し、今後はより業務と密接な関係を持った学生協働に移行することとした。

#### (2) ジュニア・スタッフ

東京大学では、大学の様々な活動に学生が積極的に参画することを奨励するために、意欲ある学部学生を「ジュニア・スタッフ」に採用し奨励金を支給する制度を実施しており、附属図書館でも活用している。

総合図書館では、ジュニア・スタッフ 8 名を雇用し、グランドオープンに向けて、耐震改修工事が完了した開架書架への資料移転作業を行った。また、オープン後には、書架整理、新着雑誌の整備、返却図書 of 配架、学生用図書の選書等の活動を行った。

駒場図書館ではジュニア・スタッフ 21 名を雇用し、学生用図書の現物選定、約 30 点の e-book レビュー作成、狭隘化解消のための資料移動作業、新入生への配布資料準備及び入学諸手続き補助等の活動を行った。また、作成されたレビューを基に、e-book レビュー展示を 4 回実施した。

柏図書館では、大学院学生から 8 名のジュニア・スタッフを雇用し、学生用図書の選書を行った。

#### (3) オンキャンパスジョブ

附属図書館では、著作権法第 37 条に則り、視覚障害等のある利用者への資料電子化サービスを行っている。従来は図書館職員の指導のもと、本学バリアフリー支援室に登録されているサポートスタッフが作業を行ってきたが、対象資料の中に専門用語や外国語、数式、図表が多く含まれていることもあり、専門知識等を有する学生の協力が求められていた。そこで、令和 2 年度

は、大学院生の高い専門性を学内業務に活かして対価を支払う「オンキャンパスジョブを活用した修学支援事業」に、「障害のある学生への就学支援業務及び障害のある教職員への就業支援業務」を応募し採択された。駒場図書館にリクエストがあった全盲の学生と教員からの書籍各1点、計2点の電子化作業（OCR処理データのテキスト校正作業）を、学生9名（学部後期課程3名、修士課程6名）で延べ144時間行った。なお、実際の作業は新型コロナウイルス感染症に配慮し、主にメールとファイル転送サービスによりリモートにて実施した。

総合図書館では所蔵資料の電子化を積極的に行っている。電子化により公開された画像の更なる活用を促進するためには検索タグなどの付加価値データが必要であるが、所蔵資料の中には判読が難しいくずし字や幕末・明治期の手書き文字が使用されているものが多数含まれている。そのため、「オンキャンパスジョブを活用した修学支援事業」に「総合図書館所蔵資料のデジタル化及び公開データ利活用促進に関する支援業務」として応募し、専門知識を持った院生にデータ作成作業を担ってもらうことにした。当事業には院生11名の参画があり、コロナ禍の状況を考慮して作業は全てオンラインで滞りなく行った。実施後のアンケートでは、「自宅や研究室で作業できる点が良かった」「様々な学術資料に触れることができ有意義だった」といった意見が聞かれた。

駒場図書館では、「オンキャンパスジョブを活用した修学支援事業」により計5名の学生を雇用し、貴重資料等の調査・整備支援業務及びマイクロ資料の劣化調査を実施した。

## 6.3 社会連携・地域貢献

### (1) 所蔵資料の出陳（総合図書館）

総合図書館では、全国の美術館・博物館等が企画する展覧会への出陳依頼があった時は所蔵資料の貸出（出陳）を行っている。令和2年度は4機関へ4点の資料を貸し出した。

### (2) 柏図書館友の会（柏図書館）

東京大学柏図書館友の会は、柏図書館の活動および事業への支援や、会員相互および柏図書館職員との交流の促進を図ることを目的として、平成20年度に発足した組織である。

令和2年度は、東京大学活動制限指針に基づき臨時休館や学外者の入構制限があったことから、第12回総会については5月に書面による開催を、友の会と柏図書館が共催する「わくわくミニコンサート」については中止した。また、理事会についても、3月にメールで審議を行った。このように、令和2年度は従来どおりの活動ができなかったこと等から、令和2年度会員については、令和3年度の会費を免除して自動継続することを理事会で決定した。また、接触を減らすことや現金の管理負担軽減等を目的に、クレジットカードの利用等による会費の支払いのキャッシュレス化を図るとともに、ウェブでの入会申込みも可能とした。

なお、令和3年3月末の会員数は一般会員183名である。

### (3) 地域の大学図書館等との連携（柏図書館）

柏図書館は、柏市立図書館並びに柏市内3大学図書館と連携して、ビブリオバトルや企画展等を毎年実施していたが、令和2年度については新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため

め中止することとなった。なお、柏図書館独自の企画として、柏図書館を除く市内3大学図書館のポスターを作成し、学外者サービスの制限等が分かるよう閲覧室入口に掲示した。

#### (4) 中学生職場体験の受入（柏図書館）

例年、柏市内の市立中学校からの依頼に基づき、中学生職場体験の受入を実施しているが、令和2年度については、中学校側からの依頼がなかったため実施しなかった。

### 6.4 教員著作物可視化事業との連携

平成28年度に開始された「教員著作物の可視化と国際発信」事業（研究推進部学術振興企画課）と連携し、東京大学教員の著作物を著者自らが紹介するサイト UTokyo BiblioPlaza に収載される著作のうち、総合図書館、駒場図書館が未所蔵の図書を合計129タイトル購入し、各館に配架した。図書館からの提案により、同サイトの各著作の紹介ページには東京大学 OPAC の検索結果へのリンクが掲載されており、所蔵・貸出状況が容易に確認できる。また、対象図書の電子書籍47タイトルもあわせて購入し、学内ネットワークにより提供を行っている。

総合図書館では、「1.3 学習・閲覧環境の充実とサービス改善の取り組み」に記載した「東京大学の知的資産を可視化する象徴的空間の整備」の一環として、耐震改修工事完了後の令和2年11月から、UTokyo BiblioPlaza 掲載図書を中心に東京大学の教員著作を展示する「UTokyo Faculty Works」コーナーを3階ホールに新設した。総合図書館内で合意を得たほか、研究推進部研究推進企画課（現・学術振興企画課）と令和2年2月から協議を重ね、人文社会科学振興ワーキング・グループの承認も得て実現したものである。UTokyo BiblioPlaza Web サイトの図書紹介ページや特集企画と連動して展示内容を定期的に更新しながら、表紙を見せる展示を中心に常時200冊程度を配置している。

### 6.5 学内他部署との連携

#### (1) 総合図書館

総合図書館では、平成27年度から、障害者集中雇用プロジェクトチーム（施設部施設企画課、以下、「プロジェクトチーム」）の建物清掃班の協力のもと、定期的な館内清掃等の作業を行っている。また平成30年度にプロジェクトチーム分室を図書館内に設け、業務支援班のコーディネーターとスタッフによる図書館業務専門のチームが常駐し、日常的に資料清掃や書架整理を実施している。

令和2年度も引き続き、建物清掃班が毎月休館日に本館の閲覧机及び館内PC約70台、別館ライブラリープラザの机・自動ドア等の清掃を行い、業務支援班の図書館分室チームは本館内開架書架の整理と書庫にある図書の清掃を毎日の業務として行いつつ、図書資産実査の補助作業も行った。今後も対象業務の多様化を図り、プロジェクトチームとの協働を深めていきたい。

#### (2) 駒場図書館

駒場図書館では、平成27年度から障害者集中雇用プロジェクトチーム建物清掃班（駒場分室）による保存書庫の資料・書架清掃や、不定期に駒場図書館内のPC、閲覧机や開架書架の清掃を行っている。週1回、3～4名のスタッフによる丁寧な作業によって、保存書庫や館内の環境は

格段に改善された。このほか教養学部等事務部環境美化チームにも不定期に書架の清掃を依頼し、資料保存環境の向上につながっている。両チームの貢献度は極めて高く、今後も連携を継続していきたい。

### (3) 柏図書館

柏図書館では、平成 25 年度から柏地区共通事務センター環境整備チームに書架整理やラベル貼付、送付物封入作業など様々な図書業務を依頼している。令和 2 年度も引き続き、図書資産実査の補助作業・廃棄資料の処理作業・返却図書の書架への配架・清掃作業などを行った。環境整備チームによる業務は、柏図書館にとって強力な業務支援となっており、今後も継続して作業内容を相談しながら業務を依頼し、連携を深めたい。

## 6.6 規則改正

附属図書館では、図書行政商議会と予算委員会との調整に関する規定を整備するために「東京大学図書行政商議会規則」の改正を行った。

総合図書館では、改修工事の完了及びアジア研究図書館の開館に合わせて、「東京大学総合図書館規則」「東京大学アジア研究図書館規則」の改正、「東京大学アジア研究図書館運営委員会規則」の制定を行った。昨年度改正した「東京大学総合図書館利用規則」「東京大学総合図書館利用細則」と併せて、令和 2 年 10 月 1 日から施行した。

駒場図書館では、「東京大学附属図書館文献複写等料金規則（令和元年 11 月 21 日改正、令和 2 年 4 月 1 日施行）の改正に伴い「東京大学大学院総合文化研究科図書館及び東京大学駒場図書館文献複写等料金内規」を新たに制定した。



## 7. 附属図書館会議

開催日	会議名称
令和2年	
4月23日(木)	第446回東京大学図書行政商議会(メール会議)
7月8日(水)	令和2年度第1回総合図書館運営委員会(メール会議)
7月10日(金)	令和2年度第1回東京大学学術資産等アーカイブズ委員会 (オンライン)
7月16日(木)	第447回東京大学図書行政商議会(オンライン)
7月28日(火)	令和2年度第1回東京大学柏図書館運営委員会(オンライン)
7月29日(水)	第49回駒場図書館運営委員会(オンライン)
10月9日(金)	(臨時)東京大学図書行政商議会(メール会議)
11月19日(木)	第448回東京大学図書行政商議会(オンライン)
12月11日(金)	第50回駒場図書館運営委員会(オンライン)
12月18日(金)	令和2年度第2回東京大学学術資産等アーカイブズ委員会 (オンライン)
令和3年	
2月4日(木)	(臨時)東京大学図書行政商議会(オンライン)
2月19日(金)	令和2年度第2回総合図書館運営委員会(メール会議)
3月4日(木)	第449回東京大学図書行政商議会(オンライン)
3月8日(月)	令和2年度第2回東京大学柏図書館運営委員会(オンライン)
3月9日(火)	第51回駒場図書館運営委員会(オンライン)

# 8. 全図書館・室統計

## 8.1 職員数、蔵書数、利用件数

図書館名	職員数		蔵書数					資料費 総額 (千円)	受入資料数					相互利用 (文献提供)					
	常勤 (人)	非常勤 (人)	図書		逐次刊行物				和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	(内購入)	逐次刊行物		館外貸出 (冊)	交付 (件)	依頼 (件)		
			和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	和文 (種)	欧文 (種)						合計 (種)	和文 (種)				欧文 (種)	合計 (種)
大学院法政学政学研究所・法学部図書室	11	5	297,831	543,115	840,946	2,347	3,811	6,158	174,644	3,518	5,844	9,362	6,203	665	691	1,356	868	362	140
近代日本法政史料センター	2	4	57,735	821	58,566	8,086	39	8,125	107	22	1	23	0	41	0	41	0	29	0
医学図書館	10	5	112,470	162,349	274,819	1,681	1,942	3,623	21,399	1,842	66	1,908	1,752	509	30	539	198	2,271	433
工学・情報理工学図書館	11	16	171,484	241,888	413,372	4,083	3,425	7,508	19,479	1,628	1,037	2,665	1,534	291	150	986	447	18,406	331
大学院人文社会科学系研究所・文学部図書室	5	19	582,865	593,476	1,156,341	9,516	4,675	14,191	49,192	3,562	3,846	7,408	3,403	561	592	1,153	759	8,744	401
理学図書館	5	8	42,007	180,148	222,155	1,478	4,411	5,889	14,982	989	906	1,895	397	184	157	341	80	3,940	67
農学生命科学図書館	11	4	266,638	182,828	449,466	7,858	5,461	13,319	30,903	1,365	2,883	4,248	886	1,105	495	1,600	639	8,251	975
経済学図書館	8	12	514,911	332,588	847,499	11,505	4,771	16,276	31,194	2,735	1,048	3,783	2,312	525	226	751	299	11,203	304
駒場図書館・大学院総合文化研究科図書館	14	21	619,622	504,509	1,124,131	2,260	3,508	5,768	35,537	5,912	2,929	8,841	5,041	657	607	1,264	879	87,424	602
自然科学図書館	1	1	11,698	20,734	32,432	138	413	551	370	149	61	210	53	23	7	30	21	3,067	*
グローバル地域研究機構図書室	1	2	9,262	70,592	79,854	135	1,092	1,227	723	151	241	392	66	46	57	103	50	1,253	
大学院教育学研究所・教育学部図書室	3	4	102,939	68,590	171,529	2,939	1,125	4,064	12,379	963	169	1,132	675	400	78	478	212	8,685	487
薬学図書館	2	2	14,376	36,572	50,948	437	443	880	1,957	182	83	265	167	89	8	97	10	1,389	91
理学部理学研究所図書室	2	3	15,754	141,070	156,824	140	1,629	1,769	57,468	114	1,795	1,909	1,756	25	455	480	304	1,439	51
大学院情報学環・学院情報学図書館	2	4	71,572	55,792	127,364	1,392	1,363	2,755	2,523	594	181	775	298	111	40	151	93	2,429	286
社会科学情報研究所図書室	0	4	12,412	5,118	17,530	0	0	0	1,441	93	13	106	103	0	0	0	0	201	0
医科学研究所図書室	2	0	832	2,588	3,420	38	17	55	288	0	0	0	0	11	5	16	5	424	30
地震研究所図書室	2	1	22,773	37,219	59,992	1,229	1,307	2,536	1,802	113	35	148	46	101	24	125	29	346	23
東洋文化研究所図書室	5	4	508,819	195,392	704,211	2,719	7,234	9,953	13,596	2,252	837	3,089	1,526	322	524	846	373	119	169
社会科学研究所図書室	7	0	215,536	142,890	358,426	5,363	2,252	7,615	15,292	1,387	665	2,052	1,214	642	165	807	307	4,734	179
生産技術研究所図書室	2	0	58,752	92,602	151,354	1,070	1,502	2,572	167	64	59	123	1	127	6	133	7	491	48
史料編纂所図書室	6	9	532,929	16,531	549,460	2,996	288	3,284	7,050	2,329	82	2,411	441	1,457	35	1,492	100	123	27
宇宙線研究所図書室	0	1	1,000	23,477	24,477	21	214	235	649	3	16	19	19	11	3	14	12	61	8
物性研究所図書室	2	1	7,554	59,612	67,166	99	635	734	9,949	180	278	458	375	37	2	39	32	2,049	40
大気海洋研究所図書室	1	3	23,700	36,602	60,302	1,665	1,198	2,863	5,060	153	57	210	132	344	210	554	45	549	39
先端科学技術研究センター図書室	1	2	18,311	30,710	49,021	80	414	494	1,286	105	42	147	127	14	3	17	11	1,414	5
総合研究博物館図書室	1	1	9,068	2,246	11,314	738	356	1,094	0	334	5	339	0	212	31	243	0	26	0
部局図書館(室) 計	117	132	4,282,850	3,780,059	8,062,909	70,013	53,525	123,538	509,437	30,739	23,179	53,918	28,527	8,510	4,601	13,656	5,780	171,979	7,122
総合図書館	37	18	871,210	459,745	1,330,955	11,762	9,711	21,473	1,509,807	14,992	7,680	22,672	6,210	1,221	202	1,423	199	116,312	1,980
柏図書館	4	3	139,076	321,401	460,477	8,192	16,447	24,639	11,483	1,325	541	1,866	1,442	9	13	22	18	14,200	609
総計	158	153	5,293,136	4,561,205	9,854,341	89,967	79,683	169,650	2,030,727	47,056	31,400	78,456	36,179	9,740	4,816	15,101	5,997	302,491	9,711

(注)日本図書館協会大学図書館調査より  
(ただし職員数は附属図書館職員名簿(2021年4月19日現在)より)

## 8.2 経年変化

### (1) 蔵書数

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2016（平成28）年度	9,577,261	1,274,450	663,311	421,752
2017（平成29）年度	9,665,812	1,285,461	673,355	432,333
2018（平成30）年度	9,745,659	1,296,961	681,053	445,286
2019（令和元）年度	9,808,256	1,308,515	687,934	453,869
2020（令和2）年度	9,854,341	1,330,955	693,124	460,477

(冊)

### (2) 所蔵雑誌種類数

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2016（平成28）年度	168,385	21,648	5,711	23,675
2017（平成29）年度	167,607	21,503	5,817	23,877
2018（平成30）年度	169,875	21,506	5,841	24,081
2019（令和元）年度	169,965	21,536	5,757	24,386
2020（令和2）年度	169,650	21,473	5,768	24,639

(種類)

### (3) 資料費総額

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2016（平成28）年度	1,809,668	70,944	30,534	17,117
2017（平成29）年度	1,838,119	76,754	31,058	12,989
2018（平成30）年度	1,910,033	75,106	29,971	12,087
2019（令和元）年度	1,968,724	62,094	34,291	12,070
2020（令和2）年度	2,030,727	62,302	27,864	11,483

(千円)

### (4) 入館者数（延人数）

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2016（平成28）年度	1,849,075	398,114	703,120	35,726
2017（平成29）年度	1,783,205	322,006	693,600	39,055
2018（平成30）年度	1,825,598	448,547	672,408	39,634
2019（令和元）年度	1,900,623	550,874	706,078	33,694
2020（令和2）年度	373,459	166,088	57,123	13,399

(人)

### (5) 館外貸出冊数

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2016（平成28）年度	516,179	147,411	169,064	31,746
2017（平成29）年度	484,890	114,924	165,941	31,822
2018（平成30）年度	503,376	135,076	171,140	29,227
2019（令和元）年度	528,522	152,975	178,548	25,715
2020（令和2）年度	302,491	116,312	87,424	14,200

(冊)

#### (6) キャンパス間配送実績

	総件数	取寄せ件数	返却のみ件数
2016（平成28）年度	108,907	47,067	14,773
2017（平成29）年度	112,540	49,636	13,268
2018（平成30）年度	109,714	47,528	14,658
2019（令和元）年度	112,640	48,429	15,782
2020（令和2）年度	62,363	26,505	9,353

(冊)

#### (7) ウェブサービス等アクセス数

	東大OPAC (検索回数)	附属図書館 ウェブサイト	GACoS
2016（平成28）年度	3,876,972	1,325,206	586,230
2017（平成29）年度	5,263,724	1,136,901	704,424
2018（平成30）年度	5,371,135	761,933	728,711
2019（令和元）年度	5,767,232	760,965	756,726
2020（令和2）年度	4,255,151	737,183	957,590

(回)

※2017年9月に附属図書館ウェブサイトを全面リニューアル、統計項目とデータ取得方法を変更

#### (8) 電子ジャーナルダウンロード数

	CUP	Science	OUP	Springer Nature	Wiley- Blackwell	Elsevier
2016（平成28）年度	26,449	166,146	169,279	1,270,907	723,586	2,165,378
2017（平成29）年度	31,748	171,636	224,286	1,386,094	792,470	2,265,331
2018（平成30）年度	34,390	224,697	235,252	1,521,795	711,781	2,792,472
2019（令和元）年度	27,244	149,344	122,454	1,072,442	589,101	1,329,439
2020（令和2）年度	22,641	223,009	104,109	1,026,052	556,613	1,299,899

(回)

※ 2016～2018年はCOUNTER 4準拠、2019～2020年はCOUNTER5準拠の数値  
(2019年の数値はCOUNTER5で集計し直したもの)

#### 【参考情報】 図書館関連統計情報の公開サイトについて

- ・ 附属図書館 統計表

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/about/statistic>

- ・ 主要情報サービス利用統計（情報システム部情報基盤課学術情報チーム）

<https://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/stat/index.html>

## 9. 付録

### 9.1 新図書館計画の10年（オープンエリア展示パネル再録）

# 新図書館計画 の 10年

Decade of New Library Project

東京大学附属図書館「新図書館計画」は別館竣工（2017年5月）、本館耐震改修工事（2015年9月～2020年8月）、アジア研究図書館開館（2020年10月）を経て、2020年11月26日のグランドオープンを持って完了しました。

「新図書館計画」は準備段階を含め、足かけ10年にわたる長期プロジェクトでした。その成果は、新たな学習スペースであるライブラリープラザと300万冊を収容可能な地下三層の自動書庫を備えた別館、伝統ある意匠を復元するとともに新たな機能を拡充させた本館、学内のアジア関係資料を集約したアジア研究図書館という、目に見える形にとどまるものではありません。若手職員を中心とした有志による「新図書館課題検討グループ」、学生ボランティア「アカデミックコモンズサポーター」の様々な活動、アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門（U-PARL）による研究と発信、大学総合教育センター、東京大学出版会との協力、学内・学外のみなさまからのご支援・ご協力を得られたことは、これからの附属図書館にとって貴重な糧となることでしょう。

本展示では、この10年間の歴史の中から新図書館計画の下に行われた種々の活動を10のトピックでご紹介します。併せて建築設計の検討に用いられた模型を展示し、総合図書館本館・別館の建物完成までの道のりを振り返ります。

新図書館計画の10年は、新しい時代の教育・研究にふさわしい図書館の姿を考えつつ走る歳月でした。このゴールに安住することなく、東京大学附属図書館は、東京大学創設140周年・図書館再建100年に向けてあらたな一歩を踏み出します。

# 新図書館計画 年表

2010	H22	9	新図書館構想検討準備部会発足，準備部会の下に5部会を設置
2011	H23		新図書館担当理事懇談会において新図書館構想承認 「新図書館構想の骨子」を公開，利用者を対象とした意見募集実施 Academic Commons Project としてイベント実施を開始【～2017】
2012	H24		新図書館計画 SC (Steering Committee) を設置 フロアプラン検討開始 若手職員を中心とした「新図書館課題検討グループ」活動開始
		10	東京大学基金「新図書館計画「アカデミック・コモンズ」」による寄附募集開始
2013	H25		新図書館計画推進室設置，東京大学新図書館計画公式 Web サイトを開設
		9	図書館前広場埋蔵文化財調査開始
		10	新図書館計画におけるハイブリッド図書館実証実験の開始に関する記者発表 学生サポーター ACS (アカデミックコモンズサポーター) 発足
2014	H26	4	アジア研究図書館上廣倫理財財寄付研究部門 (U-PARL) 設置
		9	基本方針「総合図書館本館改修の考え方」科所長会議承認 別館新設準備工事・本工事着工
		12	「東京大学 (本郷) アカデミック・コモンズ (仮称) 新営工事」起工式 本館1階に「ミニレクチャールーム」設置【2015～2017】 台湾漢学リソースセンター (TRCCS) 開設 (駒場図書館)
2015	H27		「デジタル学術資産アーカイブ構築についての基本方針」を策定 図書館団地耐震改修工事Ⅱ期 (図書館西工区，教育学部) 実施 【2015.9～2016.3 (図書館工区のみ終了)】
2016	H28		新図書館課題検討グループを「図書館未来デザインプロジェクト」に改組 学術資産アーカイブ委員会 (全学委員会) 設置 自動書庫 (日本ファイリング製) 設置開始 図書館団地耐震改修工事第Ⅲ-1期 (図書館北西工区) 実施【2016.10～2017.11】
2017	H29		新図書館計画の組織体制見直し ～新図書館計画推進室活動終了
		5	別館竣工 本郷キャンパス内に学習スペースを設置 (安田講堂，山上会館，医学部1号館) 図書館団地耐震改修工事第Ⅲ-2期 (図書館中央工区) 実施【2017.6～2018.3】
2018	H30	4	アジア研究図書館長を配置，アジア研究図書館運営委員会を設置
		5	自動書庫運用開始
		10	別館ライブラリープラザリニューアルオープン 図書館団地耐震改修工事第Ⅲ-3期 (図書館書庫工区) 実施【2018.9～2019.3】
2019	R1		図書館団地耐震改修工事第Ⅳ期 (図書館東工区，情報学環，史料編纂所) 着工 【2019.1～2020.8 (図書館工区のみ終了)】
2020	R2	8	本館耐震改修工事全工区完了
		10	アジア研究図書館開館
		11	グランドオープン



## 「新図書館構想」から「新図書館計画」へ



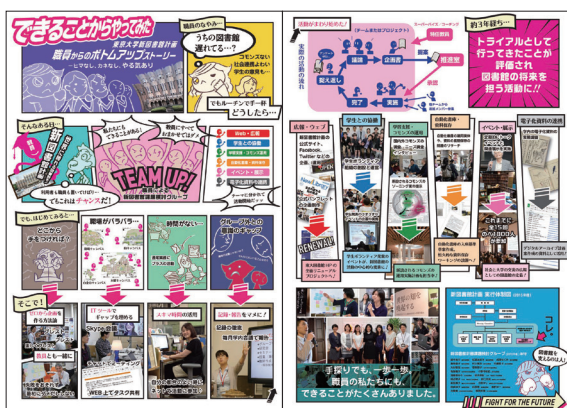
改修前の保存書庫 通路にも書架を増設していた

総合図書館は、関東大震災で旧図書館が灰燼に帰した後の1928(S3)年に再建されてから90年以上を経ています。この間、1961(S36)年と1984(S59)年に書庫の増強や閲覧席の拡張などの改修が行われましたが、その後も所蔵資料は増加し、設備の老朽化への対応が必須となっていました。

- 1 電子図書館と伝統的図書館の融合
- 2 世界最高水準のアジア研究図書館
- 3 教育との連携と国際化への対応
- 4 日本の学術文化の世界への発信
- 5 出版文化の公共的基盤

2010(H22)年、蔵書保管場所の確保が問題となっていた文系の学部と図書館の連携により、総合図書館の機能拡充を目指す「新図書館」の準備部会が設けられ、翌2011(H23)年に『新図書館の構想骨子』が作成されました。2012(H24)には、構想が『新図書館計画』として具体化し、全学的事業として計画が進められていきます。

新図書館計画 5つの柱

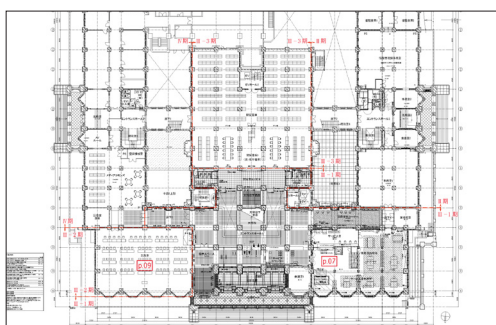


2015年図書館総合展 ポスターセッション最優秀賞獲得

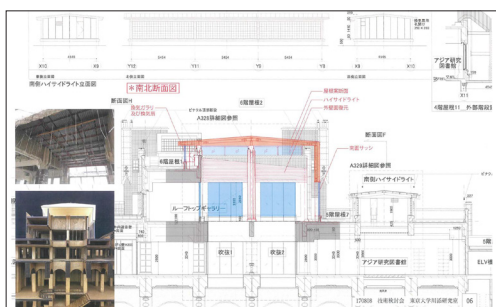
新図書館計画は、副学長や部局長等をメンバーとする幹事会の下に複数の部会が組織され、学内の教員と図書館職員の協働により遂行されました。この際、全学の図書館職員が「新図書館計画課題検討グループ(後の図書館未来デザインプロジェクトチーム)」を自発的に立ち上げ、計画を進める中で立ち現れる課題の解決や計画の広報を担いました。

# 2012 - 2019

## 改修後のフロアプラン/ 改修中のサービスプラン



新図書館計画の10年間のうちでは、改修後のフロアプランの検討と改修中のサービスプランの検討に最も多くの時間を費やしました。



本館のフロア検討図面（生産技術研究所 川添研究室）

改修後のフロアプランの作成は、「建築（意匠）と図書館（機能）」「本館と新館（後の別館）」「復元と更新」など、複数の軸が交錯する中から一つの解を見出していく難しい作業となりました。建物の設計監修に携わった生産科学技術研究所・川添研究室により製作された数多くの図面・模型を見ながら議論を重ね、本館の歴史性を踏まえつつ、学生・研究者に必要なとされる図書館の機能を、建物と設備でいかに実現するかを模索し続けました。

一方、工事は本館改修と別館新設が同時に行われ、さらに本館は5分割で複数年かけて施工されることとなり、長期の閉館をせずにサービスを継続することが計画の大きな課題でした。

図書の一部を駒場や柏で保管しながらサービスを行うほか、本館東側へ建てたプレハブへ事務部を出して館内のバウファを確保し、出入口や書架の場所などを順繰りに移していきました。安田講堂、医学部1号館に臨時的学習スペースを設けるなど、利用される方のご協力のもと、最低限の機能を維持することができました。



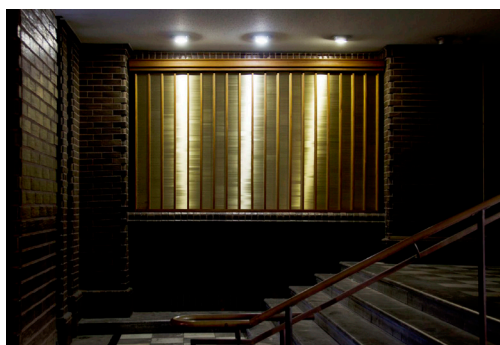
大机を取り除き書架を並べた大閲覧室



# 2012 - 2020

## 「アカデミックコモンズ」基金の設置

新図書館計画を推進するにあたり、図書館としては初めて広く寄附を募ることになりました。東京大学基金の元に『新図書館計画「アカデミック・コモンズ」』プロジェクトを立ち上げ、工事完了までの長きに渡り、卒業生をはじめ多くの方々からご支援をいただきました。



本館正面玄関の銘板



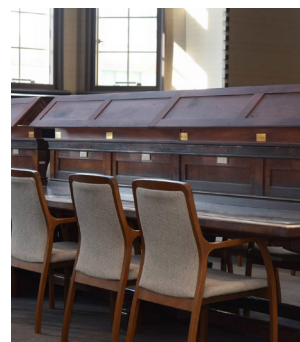
2014 寄付者向け特別セミナーの様子

ご支援をいただいた方のお名前は銘板に記し、本館正面玄関の中に設置しています。また、特典の一つとして、本館の開架図書を借りることができる特別利用証を発行しています。

この間いただいたご寄附を元に、本館内の書架の設置や、3階大閲覧室で創建当時から90年近く使われている木製大机の修復再生、別館ライブラリープラザの整備など、学習・研究のための設備の充実を図りました。



保存書庫の電動集密書架



大閲覧室の大机

なお、工事完了に伴い「アカデミックコモンズ」プロジェクト基金の募集は終了しましたが、新たに「附属図書館支援」プロジェクトを立ち上げました。場としての図書館の維持・整備だけでなく、学習用電子書籍の充実や所蔵資料のデジタル化・発信など、"with コロナ"時代により必要とされている非来館型サービスの充実も図ります。引き続きのご支援をお願いいたします。

東京大学基金 Web サイト



# 2013 - 2014

## 図書館前広場の歴史性

別館建設のための準備として、噴水とともに図書館前広場の象徴的存在だった2本の巨大なクスノキを、医学部2号館前広場へ移植。その翌年から別館建設予定地の埋蔵文化財調査が始まりました。

この調査の結果、加賀藩上屋敷の遺構・遺物や旧図書館のレンガ基礎が発掘されました。

2013(H25)年11月に開催された埋蔵文化財発掘調査見学会（主催：東京大学埋蔵文化財調査室）は数時間まちとなる盛況でした。



移植作業中のクスノキ

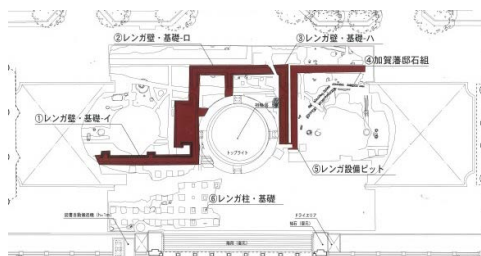


見学会の様子（撮影 東京大学埋蔵文化財調査室）



発掘調査現場

1892(M25)年に建築され、関東大震災で焼失した旧図書館の基礎が残っているとの記録はこれまでに見つかっておらず、今回の発見により予定していた広場の設計を変更し、旧図書館基礎はベンチとして、加賀藩遺構の水路石組みはスライスして敷石に組み込み、いずれも位置を保存した形で広場の一部として活用しました。これらのデザインにより、図書館前広場は江戸～明治から現代に至る歴史の記憶を継承する場となりました。



遺跡の図面（生産技術研究所 川添研究室）

## 学生の参画 ～ ACS アカデミックコモンズサポーター 発足

新図書館計画にどのように学生の声を取り入れるか。この問題解決の一つが、学生ボランティア「アカデミックコモンズサポーター (ACS)」です。2013(H25)年から募集を開始、図書館にまつわる課題を自ら発見し、解決にむけて取り組む学生ボランティア組織として様々な活動を行ってきました。



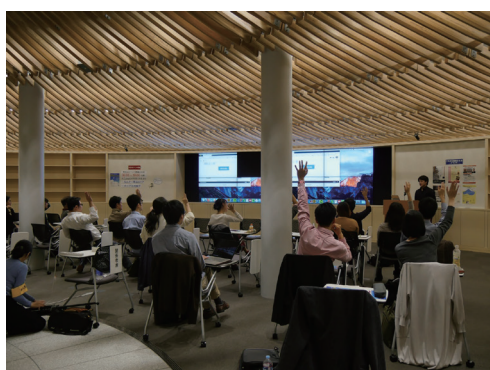
ACS と職員のミーティング風景



図書館総合展でのポスター発表

### <活動の例>

- ・新館 B1F ラーニングコモンズ型学習スペースの利活用構想の検討
- ・新図書館トークイベントの企画・運営
- ・他大学図書館の見学 / 情報交換
- ・アクティブラーニングワークショップの開催
- ・附属図書館広報誌「図書館の窓 増刊 New Library Project」の作成
- ・ビブリオバトル, 戯曲を読む会, 附属図書館スタンプラリー
- ・ACS 公式ツイッターを使ったプロモーション活動



ミニレクチャプログラム@ライブラリープラザ

特に「大学院生によるミニレクチャプログラム」は ACS が中心となって企画したものです。大学総合教育研究センターの全面的な協力の下、東京大学フューチャーファカルティプログラム (FFP) の修了生が自分の研究成果をわかりやすく伝える模擬授業を行うもので、これまでに 15 回開催されています。

# 2014 -



## アジア研究図書館 誕生へ～U-PARLの設置



アジア研究図書館フロア



開架書架にある蔵書

アジア研究図書館蔵書 分類表 Asian Research Library Classification			
分類	分類名	分類名	分類名
1	アジア研究	1.1 総論	1.1.1 総論
2	東アジア研究	2.1 中国	2.1.1 中国
3	東南アジア研究	3.1 東南アジア	3.1.1 東南アジア
4	南アジア研究	4.1 南アジア	4.1.1 南アジア
5	オセアニア研究	5.1 オセアニア	5.1.1 オセアニア
6	イスラーム研究	6.1 イスラーム	6.1.1 イスラーム
7	言語学	7.1 言語学	7.1.1 言語学
8	文学	8.1 文学	8.1.1 文学
9	歴史学	9.1 歴史学	9.1.1 歴史学
10	地理学	10.1 地理学	10.1.1 地理学
11	人類学	11.1 人類学	11.1.1 人類学
12	社会学	12.1 社会学	12.1.1 社会学
13	政治学	13.1 政治学	13.1.1 政治学
14	経済学	14.1 経済学	14.1.1 経済学
15	法学	15.1 法学	15.1.1 法学
16	医学	16.1 医学	16.1.1 医学
17	農学	17.1 農学	17.1.1 農学
18	工学	18.1 工学	18.1.1 工学
19	自然科学	19.1 自然科学	19.1.1 自然科学
20	芸術学	20.1 芸術学	20.1.1 芸術学

独自の分類表

**ASIAN LIBRARY CAFE**

文字を支える書字材料  
～パピルス・羊皮紙・紙・活版印刷～

制作説明 永井正樹 (山形県立博物館)

アジア発祥の書字材料 パピルスと羊皮紙

紙の歴史と文化

活版印刷の歴史

アジアの紙を体験する

印刷機は最新のデジタルリソリット

小島浩之 東京大学文学部教授

デジタル時代のデジタルリソリット印刷から考える

安比信行 慶応義塾大学文学部教授

2018.7.14 (土) 14:00～17:00

参加無料 (定員50名)

事前にホームページからお申し込み下さい

申込: <http://u-parl.jp>

場所: 東工大本郷キャンパス  
伊藤国文学部研究センター 2階 (アトリウム)

U-PARL 東京大学附属図書館 伊藤国文学部研究センター

活動成果の公開

The Library as the Hub of Knowledge in Asia:  
Classification of High-quality Academic Journals for Asia Studies

**図書館がつなぐアジアの知**  
(分類法から考える)

Library Design for the Asian Research Library (U-PARL)

アジア研究に最適な  
図書の配列とは？

図書館と研究をむすぶ  
新たな知の視点の誕生

東京大学附属図書館

新図書館計画の柱の一つである「アジア研究図書館」を実現するため、2014(H26)年4月、公益財団法人上廣倫理財団の寄付を得て、附属図書館初の研究部門である「アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 Uehiro Project for the Asian Research Library (U-PARL)」が設置されました。

専任の教員・研究員が主体となり、人文社会系研究科、総合文化研究科、東洋文化研究所の兼務教員とも協力し、蔵書構築、分類体系の策定、フロアプランの検討などを行ったほか、世界各国のアジア研究図書館の視察・調査を行い、目指すべき図書館像の探求を進めました。この調査結果の一部は、『世界の図書館からーアジア研究のための図書館・公文書館ガイド』、『図書館がつなぐアジアの知』という書籍となりました。

これらアジア研究図書館の構築支援に加え、積極的にセミナーやワークショップを開催し、東アジア藝文書院、ヒューマニティーズセンターとの連携など、研究活動も幅広く展開しており、図書館とアジア研究を結ぶ新たな私たちの研究拠点の構築を目指しています。

# 2014 - 2017

## 別館建設 ～ 高難度の大規模地下工事



別館建設の様子を上空から（撮影 清水建設）

本郷キャンパスは多くの建物が密集しており、新たな施設を設置する場所が限られるなか、大規模な書庫を設けるための解として、本館に隣接する図書館前広場に地下施設を新設することとなりました。広場の噴水の保持、本館との建物的な取り合いなど、多くの難問をクリアしながら設計・施工が進められました。



地下で掘削した土を地上へ排出する設備

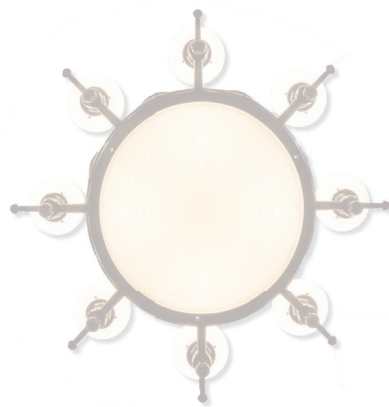
周辺を建物に囲まれた狭隘な場所へ相当なボリュームを持つ地下構造物を建造するために、橋脚の基礎工事などに用いる土木技術のニューマチックケーソン工法が採用されました。外壁は地下の土圧・水圧に耐えるため約2mの厚さがあり、外周は厚さ6mmの鋼板で覆われ地下水の侵入を防いでいます。



噴水設置前の地下1階断面（撮影 清水建設）

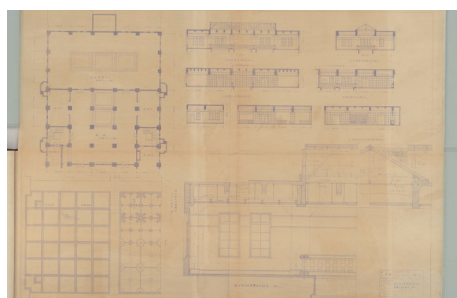
別館は建物全体で深さが約46mあり、15階建て相当のマンションが地面に埋まっている状態で、地下2-4階の自動書庫スペースは41mを占める巨大な地下空間です。昨今のゲリラ豪雨による浸水防止のため、地上の排水勾配を広場全体で計画し、噴水は降雪時にガラスと水盤にかかる重量、地震による歪みもなど考慮し、水漏れ対策と安全性を重視して慎重に設計されました。

# 2015 - 2020

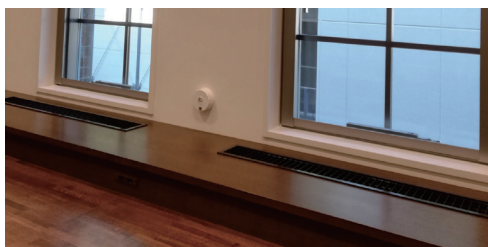


## 本館改修 ～ 復元と更新

第二次世界大戦中の金属回収やこれまでの改修工事で本館のトップライトは塞がれ、照明器具や什器も取り替えられていました。歴史的価値の復元のため、学内に残された創建時の設計図や図面から、設計が起こされました。

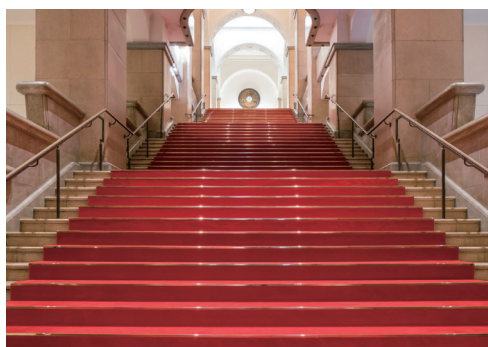


本館創建時のトップライト設計図



3階カウンター席の光警報装置

同時に、1928(S3)年の創建当時からは社会状況も大学図書館に求められるものも変わっています。改修本来の目的である耐震性・安全性の確保、省エネルギー、バリアフリー対応も当然求められました。床荷重に問題のある書架は撤去され、床下空調とした大閲覧室には出入口にスロープを設置。さらに、3階東側の閲覧席には、視覚障害の方の安全な避難を支援するための光警報装置を取り付けました。



トップライトが復元された大階段

この他にも、中央大階段と3階大閲覧室のトップライトが復元され、5階も元の広々としたラウンジとして再生しました。

壁材をはらい、後付けの床を撤去する大規模な工事が開館しながら実施され、職員は騒音に悩まされながらサービスに従事しました。学生・教職員・学外の利用者みなさまにも度重なる動線の変更、騒音・振動によりご迷惑をおかけしました。

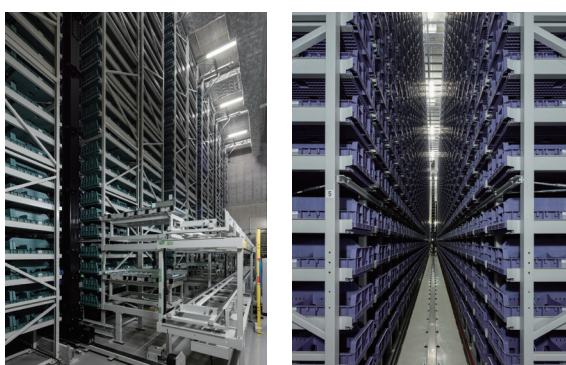


3階ホール工事の様子（撮影 清水建設）

# 2018 -

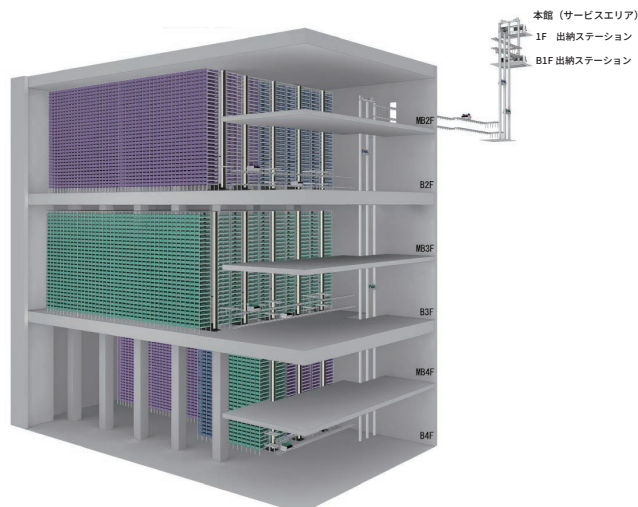


## 自動書庫 運用開始



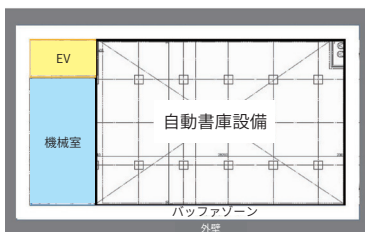
自動書庫の内部（撮影 小川重雄）

別館地下 2-4 階に設置された自動書庫。地下で 300 万冊収容は国内最大規模です。現在、52 万冊の資料が入っていますが、今後は学内の人社系の製本雑誌やアジア関係資料を中心に収納される予定です。ラックに収められている空のコンテナは、入庫のために呼び出されるのを待っています。



自動書庫の全体像（提供 日本ファイリング）

自動書庫は地下 3 フロアに分割されており、資料のサイズ別に分かれたコンテナを使用することで、限られた空間を有効活用しています。本館内の OPAC 端末での操作によりリクエストされた資料は、コンテナごとスタックークレーンでピックアップされ、コンベアで垂直搬送路まで運ばれたのち、本館 1 階・地下 1 階の出納ステーションへ届けられます。

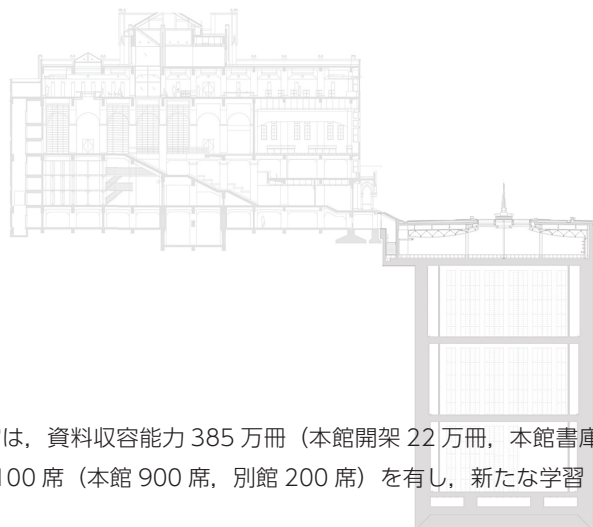


自動書庫を取り囲むバッファゾーン



厚さ 2m の外壁の内側、自動書庫が入っている部屋の壁までの間にはさらに幅 1.5m のバッファゾーンを設け、そこに漏水センサーを設置して、水から資料を守る対策を徹底的にほどこしています。

# 2020



## グランドオープン

2020(R2)年8月本館改修工事完了。総合図書館は、資料収容能力385万冊（本館開架22万冊、本館書庫63万冊、自動書庫300万冊）、座席数総計約1,100席（本館900席、別館200席）を有し、新たな学習・研究機能を持つ図書館として再生しました。



新・総合図書館 本館と噴水下の別館

地上5階・地下1階の総合図書館本館は、中央・西側・東側・書庫という4つのエリアに分けられます。

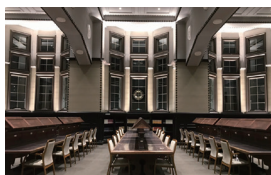
中央エリア：歴史的価値の復元

東エリア：新規性・情報発信とコミュニケーション

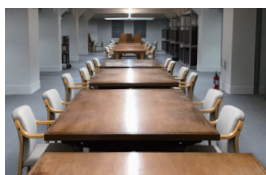
西エリア：事務部門を集約、効率的な運営を図る

書庫エリア：東京大学の知的資産を後世に伝える

1階は記念室やオープンエリアなど開かれた図書館としての機能を持ち、2階はプロジェクトボックスやセミナールームが置かれ、多様な学習スタイルに対応する空間となりました。



3階は2階とは対照的に静寂な閲覧と学習の場、4階は研究を中心としたエリアとなり、アジア研究図書館を中央部に、東西にリサーチcommonsが置かれました。



地下1階には自動書庫/保存書庫/貴重書庫の資料を利用するための、書庫資料閲覧室、閲覧個室、貴重書閲覧室が設置されました。別館への接続エリアも地下1階にあり、ライブラリープラザでも図書館資料が容易に利用できるようになりました。

多様な学習空間



4階は全て、今年10月に新たにオープンしたアジア研究図書館のフロアです。アジア研究のための基礎的な研究書や参考図書を配架しており、学内の部局図書館・室が保管してきたアジア関係資料を集約していくことを目指しています。特徴的なガラス天井は創建当時のものですが、今回の改修で自然光も取り入れ、より美しい姿に生まれ変わりました。



## 9.2 新型コロナウイルス感染症対策記録

令和2(2020)年

- 2月18日(火) 「新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について」  
(更新2回目) 部局主催のイベントや行事等への感染予防措置追加
- 2月26日(水) 政府から2週間程度のイベント等の自粛要請  
→ アジア研究図書館シンポジウム延期、南原繁記念賞表彰式・講演会  
中止、各種講習会(情報基盤課学術情報チーム)休止
- 2月28日(金) 各図書館・室 開館時間を短縮または閉室、利用制限を開始
- 3月18日(水) 学外者の入構制限開始
- 3月19日(木) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う総合文化研究科の活動制限ステージ  
イエロー(新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制  
限指針レベル0.5に相当)
- 3月26日(木) 図書館連絡会議をオンライン併用で開催  
【駒場図】全ての閲覧席利用休止(～7月14日(火))
- 3月27日(金) 新型コロナウイルス対策タスクフォース「東京都の平日の自宅勤務、  
夜間や今週末を含めた不要不急の外出自粛を受けた「緊急のお願い」  
総合文化研究科の活動制限ステージオレンジ(東京大学の活動制限指針  
レベル1に相当)に引き上げ  
【総合図】土日休館、別館閉館、夜間開館休止
- 3月28日(土) 【駒場図】平日夜間、土日祝の臨時閉館(～7月14日(火))  
学外者は利用証・入館証所持者も含め利用不可  
(～3年3月22日(月))
- 3月30日(月) 【柏図】平日夜間、土曜開館休止  
学外者の入館制限開始(～10月19日(月))
- 4月6日(月) 東京大学の活動制限指針レベル2に引き上げ  
本郷キャンパスでは守衛のいる門に入構を限定
- 4月7日(火) 総合文化研究科の活動制限ステージレッドA(東京大学の活動制限指針レベル  
2に相当)に引き上げ  
東京大学の活動制限指針レベル3に引き上げ  
ASKサービス休止(～5月14日(木))  
学内配送(他キャンパス資料の取り寄せ)休止(～6月14日(日))  
【総合図】【柏図】休館(【総合図】教員のみ予約で対応)
- 4月8日(水) 【総合図】【柏図】全面休館、職員は原則在宅勤務(～6月14日(日))  
【駒場図】原則閉館(～4月12日(日))  
授業利用のための教員専用資料貸出・文献複写サービス実施  
(～4月10日(金)／6月3日(水)～再開)

「オンライン学習、在宅研究・勤務で利用できるオンラインサービスのご案内」を公開

- 4月10日(金) SSL-VPN 接続を強化 (情報基盤課学術情報チーム)
- 4月13日(月) 総合文化研究科の活動制限ステージレッド B (東京大学の活動制限指針レベル 3 に相当) に引き上げ  
【駒場図】 全面閉館、職員は在宅勤務 (～6月2日(火))  
MyOPAC サービス休止 (～6月14日(日))
- 4月14日(火) 総合図書館改修工事 (第 IV 期) 休止 (～5月6日(水))
- 5月15日(金) ASK サービス再開
- 5月18日(月) 【総合図】【柏図】 活動制限指針レベル 3 での図書館サービス拡大  
郵送による総合図書館資料の貸出及び複写物提供
- 5月20日(水) 【駒場図】 学位論文執筆に必要な駒場図書館資料の郵送貸出サービス  
実施 (～6月16日(火))
- 5月25日(月) 【駒場図】 学位論文執筆に必要な駒場図書館資料の文献複写の郵送  
サービス実施 (～6月16日(火))
- 6月1日(月) 東京大学の活動制限指針レベル 2 に緩和  
総合文化研究科の活動制限ステージレッド A に緩和  
【総合図】【柏図】 東京大学の活動制限指針に応じた総合図書館、柏図書館  
のロードマップを公開  
【総合図】 書庫資料の事前予約貸出サービス開始  
【柏図】 事前予約による事務室での貸出開始
- 6月3日(水) 【駒場図】 原則閉館、授業利用のための教員専用資料貸出サービス・  
文献複写サービス実施 (～16日(火))
- 6月15日(月) 東京大学の活動制限指針レベル 1 に緩和  
総合文化研究科の活動制限ステージオレンジに緩和  
【総合図】 在籍者対象にサービスを限定し短縮開館  
サーモグラフィーの設置 (本部総務課による)  
「COCOA を利用したキャンパス内人口密度モニタリング」センサー  
の設置 (情報学環・中尾研究室)  
【駒場図】 東京大学の活動制限指針に応じた駒場図書館ロードマップを公開  
【柏図】 郵送貸出及び事前予約による事務室での貸出終了  
短縮開館による館内利用再開 (学内者のみ)
- 6月17日(水) 【駒場図】 短縮開館再開  
図書・文献複写郵送サービスの対象者拡大  
(～7月30日(木))  
駒場 I キャンパス所属者に限定した来館利用実施  
(～9月24日(木))  
入館予約制実施 (～3年3月21日(日))
- 6月26日(金) 【柏図】 第 23 回サイエンスカフェ中止

- 7月13日(月) 東京大学の活動制限指針レベル0.5に緩和  
総合文化研究科の活動制限ステージイエローに緩和
- 7月14日(火) 【総合図】館内閲覧利用を再開  
【柏図】通常開館再開(学内者のみ)
- 7月15日(水) 【駒場図】土日祝日開館を再開、閲覧席の一部利用再開
- 8月5日(水) 職員採用面接をオンラインで実施
- 9月3日(木) 【駒場図】混雑度モニタリングビーコンの設置  
(工学系研究科・川原研究室)
- 9月25日(金) 【駒場図】駒場Iキャンパス所属者以外の本学構成員の入構/入館可に  
緩和
- 10月19日(月) 【柏図】学外者の利用再開
- 10月29日(木) 大学総合教育センターFFPミニレクチャープログラムをオンラインで  
開催
- 11月2日(月) 【駒場図】受益者負担による図書・複写物郵送サービス開始
- 11月9日(月) 【柏図】第24回サイエンスカフェをオンライン併用で開催
- 11月26日(木) 総合図書館グランドオープン・アジア研究図書館開館記念式典を最小限  
の関係者のみで挙行

令和3(2021)年

- 1月11日(月) 東京大学の活動制限指針レベル1に引き上げ  
総合文化研究科の活動制限ステージオレンジに引き上げ  
【柏図】学外者(入館証等を持つ学外者を除く)の利用を再度制限
- 1月15日(金) 【柏図】第23回わくわくミニコンサート中止
- 1月18日(月) 【総合図】閲覧席利用を休止
- 3月15日(月) アジア研究図書館開館記念シンポジウムをオンラインで開催
- 3月22日(月) 東京大学の活動制限指針レベル0.5に緩和  
総合文化研究科の活動制限ステージイエローに緩和  
【総合図】閲覧席利用及び学外者の資料利用再開  
【駒場図】入館予約不要に変更、入館ゲート脇にサーモグラフィを2台設置、  
学外者のうち名誉教授・駒場友の会会員の入館再開
- 3月26日(金) 【総合図】南原繁記念賞表彰式を最小限の関係者のみで挙行

「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」に応じた総合図書館ロードマップ(2020年6月1日版)

※各段階でのサービスの設定は暫定的なもので、変更される場合があります。詳細はその都度総合図書館WEBサイトのお知らせをご参照ください。

総合	大学方針による時期の想定	オンラインサービス	開館/閉館	施設の利用制限	国立国会図書館デジタル資料送信サービスの利用	図書館資料の利用
0	新しい日常 【最速】レベル1の2週間後	実施 実施	通常開館 通常開館	通常運用 ・ライブラリープラザの一部利用制限 ・学外者の入館及び施設見学の制限	通常運用 通常運用	通常運用 通常運用(学外者に一部制限あり)
0.5						
1	【最速】2週間後(6月15日頃)	実施	開館(夜間・土日祝日閉館休止)	・ライブラリープラザ閉室 ・書庫入庫禁止 ・閲覧席の利用禁止 ・ECCS端末の利用禁止 ・学外者の入館及び施設見学の休止	事前予約により実施	・利用者自ら書架の資料を取り出して手続きを行うことで貸出を実施 ・書庫資料は全て職員が出納 ・来館できない本学在籍者に対して郵送貸出を実施
2	6月1日	実施	原則休館	休止	休止	・本学に在籍する学生・教職員に対して郵送による貸出・複写提供サービスを実施(送料無償) ・教員及び学位論文(卒業論文、修士論文、博士論文)執筆目的の学生に対し、郵送できない書庫本を対象とした予約貸出サービスを実施(但し学部生は、入構について事前に指導教員の許可を得ることが必要)
3		実施	完全休館	休止	休止	・学位論文(卒業論文、修士論文、博士論文)執筆目的の学生に対して郵送による貸出・複写提供サービスを実施(送料無償)
4		実施	完全休館	休止	休止	休止

「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」に応じた駒場図書館ロードマップ

※各段階でのサービス開始時期は準備状況により変更される場合があります。詳細はその都度駒場図書館WEBサイトのお知らせをご参照ください。

2020/6/15

本研究所におけるステージ	本学の活動制限レベル	駒図の変更時期の予定	オンラインサービス	開館/閉館	施設の利用制限	図書館資料の利用	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用	注意事項
グリーン	0	新しい日常 【最速】レベル1の2週間後	実施	通常開館 平日及び休日 短縮開館 平日 10時-20時 土日祝休日 9時-19時	通常運用 ・入館予約制(1コマ250名、平日：10時-13時/13時半-16時半/17時-19時半、土日祝休日：9時-12時/12時半-15時半/16時-18時半) ・閲覧席及びメディアパーク座席間引き(370席程度利用可) ・グループ学習室の利用停止 ・飲食スペースの閉鎖 ・校外者の入館停止	通常運用 ・駒場キャンパス研究室図書資料の利用案内再開 ・来館できない本学学生に対して駒場図書館資料の図書・複写物郵送サービスを実施(学位論文執筆目的の学生から対象者拡大し7/30まで継続予定) ・特別閲覧、マイクログ資料閲覧再開 ・学外ILL(貸借)サービス再開 ・駒場キャンパス研究室図書資料の利用案内休止	通常運用 事前予約制(1コマ1時間1名限定)	図書館の利用を希望する学生は予約制により入館可能 オンライン授業・試験の視聴のための入館不可
イエロー	0.5							
オレンジ	1	【最速】6月17日頃	実施 (MyOPACサービス再開)	平日短縮開館 10時-16時半 (夜間・休日開館休止)	・入館予約制(1コマ250名、10時-13時/13時半-16時半) ・閲覧席及びメディアパークの利用停止 ・グループ学習室の利用停止 ・飲食スペースの閉鎖 ・展示ケースの利用/特別利用申請受付停止 ・校外者および他キャンパス所属者の入館停止	・学内他キャンパス資料の取り寄せ、文献デリバリーサービス再開(但し所蔵館の事情による) ・学外ILL(複写)サービス再開 ・来館できない本学学生に対して駒場図書館資料の図書・複写物郵送サービスを実施(学位論文執筆目的の学生から対象者拡大し7/30まで継続予定) ・貸出中の図書の返却期限を7/30まで一括延長し、学生の新たな貸出分についても一律7/30とする ・駒場キャンパス研究室図書資料の利用案内休止	事前予約制(1コマ1時間1名限定)	他キャンパス所属者は入館不可 図書館の利用を希望する教職員・学生は予約制により入館可能 オンライン授業・試験の視聴のための入館不可
レッドA	2	6月3日	実施 (MyOPACサービスは休止)	原則休館	休止	・貸出中の図書の返却期限一括延長 ・本学教員に対して事前申請による講義に必要な資料の出納、貸出及び複写サービスを実施(入館は平日10時半-12時、13時-14時半の時間限定) ・学位論文執筆目的の本学学生に対して駒場図書館資料の図書・複写物郵送サービスを実施 ・学外ILL(複写)サービス再開 ・駒場キャンパス研究室図書資料の利用案内休止	休止	
レッドB	3		実施	完全休館	休止	・学位論文執筆目的の本学学生に対して駒場図書館資料の図書・複写物郵送サービスを実施 ・駒場キャンパス研究室図書資料の利用案内休止	休止	
レッドC	4	活動の停止	実施	完全休館	休止	休止	休止	

「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」  
 に応じた柏図書館ロードマップ（2020年6月1日版）

東京大学 活動制限指針	開館/休館	図書館施設の利用	資料の利用
レベル0	通常開館	・利用可能です	・利用可能です
レベル0.5	通常開館	・本学所属の学生・教職員のみ利用可能です ・学外の方（既に入館証・友の会会員証をお持ちの方を除く）は入館できません	・利用可能です
レベル1	短縮開館 （平日9:00～17:00のみ開館）	・本学所属の学生・教職員のみ利用可能です ・学外の方は利用できません ・メディアホール、コンファレンスルーム、セミナー室1, 2は利用できません	・利用可能です
レベル2	完全休館	・入館できません	・本学学生および教職員に、事前予約による資料貸出を実施します ・本学学生に、郵送による貸出/文献複写を実施します
レベル3	完全休館	・入館できません	・本学学生に、郵送による貸出/文献複写を実施します
レベル4	完全休館	・入館できません	・利用できません

※各活動制限指針におけるサービス設定は暫定的なものであり、今後変更することがあります。変更された場合は、ホームページでお知らせいたします。

## 東京大学附属図書館

2021年9月6日 発行

編集・発行 東京大学附属図書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

電話 03-5841-2612, 2613 (総務課企画渉外チーム)

Fax 03-5841-2636

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>

印刷・製本 平河工業社